

令和6年度 第8回デジタル地域通貨利用促進委員会会議録

1. 開催日時
令和7年3月28日（金）14時00分～15時30分
2. 開催場所
名取市役所6階第2会議室
3. 出席者
宮崎委員長、熊谷委員、佐藤委員、小平委員、小畑委員、松野委員、赤間委員、来栖委員
4. 欠席者
千葉委員
5. 出席者
（委員長要請による出席者）
名取市商工会：高橋主査
名取市 企画政策課：針生課長
（株）NTTカードソリューション：川原崎課長、皆川（リモート）、清水（リモート）
NTT東日本（株）本社：長谷課長
宮城支店：久保課長（DX推進アドバイザー）、谷平一久（リモート）
（事務局）
DX推進室 成田室長、新開室長補佐、今野主査、菅原主査、伊藤主事
6. 事務局より
 - ・傍聴者の報告及び会議の記録方法の確認
 - ・本委員会は公開対象とし、本日の傍聴者は0名。
7. 宮崎委員長あいさつ
 - ・本日の流れを次第にそって説明。次年度の利用促進の議論をしたい。
8. 資料
 - （1）なとりコインの利用実績について … 【資料1】
 - （2）なとりコインプレミアム概要 … 【資料2】
 - （3）なとりコインアンケート・ヒアリング調査結果報告 … 【資料3】
 - （4）年間スケジュールについて … 【資料4】
 - （5）前回の議事録 … 【資料5】
9. 議事内容
 - （1）報告事項
 - ①なとりコインの利用実績について
 - 要点
 - ◇ユーザ数と決済データ
 - ・なとりコインのユーザ数は、7月29日のローンチ以降、右肩上がりが増加中。
 - ・累計チャージ金額は8,396,000円、決済金額は8,120,887円で、12月に目標600万円を達成。
 - ・店舗決済の比率は安定している。
 - ◇「みやぼ」との比較と連携の可能性

- ・名取市の登録店舗数では、なとりコインが「みやぼ」より多い。
- ・みやぼユーザ 23,076 人がなとりコインに移行可能だが、市内限定の利用制限がある。
- ・みやぼの良い所を活かして、サービス向上や未利用者の促進を図りたい。

◇行政との連携と技術的な可能性

- ・県の防災アプリとしての利用を考慮し、平時にも対応可能な形で「みやぼ事業」が進行中。
- ・防災アプリとの連携については、技術開発によって連携可能であるとし、Amazon をなとりコインに変えることもできる

◇課題と改善提案

- ・年齢別未利用者への取り組みが必要であり、告知の強化が求められる
- ・マイナンバーの煩雑さを含め、なとりコインの魅力を考慮する必要がある
- ・全国ニュースや Yahoo ニュースでの告知方法を検討し、周知徹底を図るべき

◇データ利用と自治体の狙い

- ・名取市民への直接通知はデータ活用が制限されている。
- ・県は防災目的のアプリを平時にも有効に使うことを狙っている。

○発言内容

(事務局)

- ・ユーザ数データは、ローンチの 7 月 29 日からの数値を基にしている W チャンスキャンペーンから右肩上がりが増加中
- ・累計チャージ金額は 8,396,000 円
- ・決済金額の推移は、累計 8,120,887 円となり、12 月に入り目標 600 万円を達成
- ・店舗決済は、先月の比率とほぼ同じ
- ・みやぼとの比較では、名取市の登録店舗数は、なとりコインの方が多い
- ・決済額をみると流入もある
- ・みやぼユーザ 23,076 人は、なとりコインに取り組めるのではないかと考える
- ・みやぼ活用も考えられるが、市内限定での利用はできない

(委員長)

- ・本格流通開始以降のデータをもとに、サービス向上と年齢別未利用者の促進が必要。みやぼと
のよい所を活かして連携を考えたいと思います

(委員)

- ・資料 1-3 の年齢別の緑は、紙ですか？

(事務局：伊藤主事)

- ・行政ポイントなどの紙カードです

(委員)

- ・みやぼの 3,000 ポイント加入は一時的なものと思いますが、スライドは簡単ではないと思います

(委員長)

- ・県の防災プロモーションに関連していると思いますが、少ない店舗でこれだけの影響があるのは注目です

(委員)

- ・みやぼの詳細データを入手できたことに驚きました

(事務局)

- ・宮城県から許諾を得て入手しています

(松野委員)

- ・名取市民登録者 23,076 人に通知は可能ですか

(事務局)

- ・データを活用することはできません

(委員長)

- ・県は自治体にどのような狙いがあるのでしょうか

(事務局)

- ・防災時に使うアプリとして、平時にも使えるようにみやぼ事業を行っています

(委員長)

- ・県のポケサにリンクできれば良いのと、利用者目線で見ると2つのアプリがあるので、店舗でも説明できるように整理が必要と考えます

(熊谷)

- ・連携はできないのでしょうか

(NTT 東日本)

- ・開発は必要ですが、可能です。Amazon をなとりコインに変えることもできます

(委員長)

- ・1,000 円と 3,000 円での登録数が違うのとマイナンバーの煩雑さを考えながらなとりコインの魅力を考えなければならない

(委員)

- ・告知も重要で、全国ニュースなどの告知が必要ではないでしょうか

(委員長)

- ・アンケートでも周知の必要性が指摘されています。Yahoo ニュースに掲載されるなどの方法を考えたいです

②なとりコインプレミアム概要

○要点

◇プレミアム商品券の実施と手続き

- ・広報なとり 4 月号に折り込み、5 割増しプレミアム商品券が実施される。
- ・申込方法はオンラインとハガキで、オンラインはマイナカードを利用。未所持者にはハガキで対応
- ・手続き方法や関連情報を掲載し、加盟店舗も QR コードで確認可能

◇懸念事項と対応

- ・手続きが複雑で断念する可能性や、名取市民限定の表記が小さいことへの懸念
- ・店舗一覧が見つらいとの指摘があり、ナトぽたのマップへの誘導が提案される
- ・市の特設窓口での対応が進められ、数件の問い合わせが既にある

◇高齢者対応と情報共有

- ・高齢者向けにチャットボットなどの対応を検討
- ・市長による報道発表があり、引き続き情報共有を進める予定

◇その他の指摘と進展

- ・イオン内の店舗情報が変わっており、その反映についての心配が表明され、3 月に新店舗向けの説明会が計画されている
- ・名取市内の世帯数は 34,039 世帯（3 月 1 日現在）である。

○発言内容

(事務局)

- ・広報なとり 4 月号に折込
- ・5 割増しプレミアム商品券の実施
- ・抽選は、口数制限の抽選で買えないわけではない
- ・申込方法は、オンラインとハガキ
- ・オンラインは、マイナカードを利用
- ・マイナカード未所持者やスマホ未対応者は、カードタイプのはがき受付
- ・はがきは、6 月 20 日頃に市の指定場所を案内する

- ・手続き方法も掲載している
- ・なとりコインの新規登録で動画も作成している
- ・紙カードからチャージする方法、店舗利用手順も掲載
- ・プレ商のQ Aも掲載している
- ・加盟店舗も掲載している。QRコードで随時確認できるようにした
(委員長)
- ・物価高騰支援ということで実施する施策ですが、利用までの手続きで断念するかもしれないと心配しています。
(委員)
- ・名取市民限定の文字が小さいと感じ、問い合わせが多くなるのではと心配します
(委員)
- ・店舗一覧が見つらく感じます
(委員長)
- ・ナトぼたのマップに誘導するのもあるのではないのでしょうか
(委員長)
- ・市長から報道発表などがありますか
(事務局)
- ・定例記者会見で発表しています
(委員)
- ・web の応募状況には、名取市限定とわかるようにしないとクレームになる可能性があるかもしれない
(委員長)
- ・市の1階でも特設窓口を設けて対応していますよね
(事務局)
- ・開設済みで、数件の問い合わせがあります
(委員長)
- ・アンケートで高齢者がどのように使えば良いかわからないという回答があったので、この機会に高齢者に広げるようなチャットボットなどの対応も考えてみるのも良いと思います
(委員)
- ・イオン内が改装中で店舗の増減が日々変わっています。イオンの情報がどこまで反映しているか心配です
(事務局)
- ・開村中で新店舗がこれから入ると聞いているので、新店舗向けに3月説明会を実施し、今後ともタイミングを見て実施します
(委員長)
- ・市民がわかるようにマイナカードで対応していることや紙タイプもあることをわかりやすく伝えてもらえればと思います
(熊谷委員)
- ・締切は、23時59分までですか
(事務局)
- ・はい。登録後のメール通知で確認できるようになっています
(委員)
- ・遅れた場合は、ハガキの方法もありますね
(委員)
- ・名取市内の世帯数はわかりますか
(事務局)
- ・2月末現在で34,039世帯です

③利用者アンケートの結果と④加盟店ヒアリングの結果

○要点

◇アンケートとヒアリング結果の概要

- ・アプリ登録者の大多数は市内在住で、30代から60代の利用が多い
- ・チャージ理由の多くはキャンペーンの魅力に基づくもので、行政ポイントも利用されている
- ・日常的な利用の増加が課題であり、特に若年層の利用促進が重要。

◇利用者の意見と改善点

- ・多くの利用者が、どこで利用できるかわからないと感じており、店舗の情報提供が必要
- ・アプリの使い勝手や、シームレスな操作性の向上が求められている
- ・店舗数の拡大と、クレジットカードチャージの利便性向上が必要
- ・コンビニチャージとQRコードの読み取りに関する誤解があり、説明が必要

◇戦略的な広報と将来ビジョンの共有

- ・利用者への周知/浸透を図るため、専門のPR人材の必要性が指摘された
- ・なとりコインの強みや行政ポイントの利点を広く周知することが重要
- ・将来的なビジョンを市民と共有し、安心感と信頼性の向上を図るべき

◇特定の課題と考察

- ・満足度と決済額に大きな差は見られず、利用者の個性に合わせた対応が必要
- ・若者の利用を増やすため、社会貢献や生活支援に結びつく施策が求められる

○発言内容

(事務局)

- ・前半はアンケート概要、後半はヒアリング内容です
- ・アプリ登録者数は2,603件中、対象可能が2,455件で、537件の回答がありました
- ・主に市内の方が9割で、勤務は市外も半分あります
- ・若干女性が多いです
- ・30から40代の子育て世代、50代から60代も多いです
- ・60代も多いので、今後この年代が70代になると使える人も増えるでしょう
- ・チャージ理由では、キャンペーンのお得感が多かったです。これが無いと使ってもらえないと危機感があります
- ・行政ポイントを貰って使っている人もいます
- ・新しい決済手段を体験したいという方の声を拾っていければと思います
- ・利用頻度は、日常的に利用している12.4%を増やすことを考えていきたいです
- ・日常遣いの検討が必要です
- ・中年層の日常使いが多く、日常買い物での利用が見られます
- ・20から30代が使われていないです
- ・決済額については、期間を示さなかったのも全体的な把握はしていませんが、どの層でも利用されています
- ・満足度は、大きな違いが見られませんでした
- ・不満が多いと感じるので、改善をどうするかがポイントです
- ・行政ポイント受け取りについては、抵抗感は9割がほぼ無いと回答しています
- ・利用希望店舗は、業態別に様々ありましたが、飲食店の数が多かったです
- ・どこが使えるかわからない、イオン全部使えるようにしてほしいなどの声がありました
- ・使えるところを増やす検討材料になれば良いと思います
- ・全体的にシームレスなアプリ化の要望があり、ログインとチャージと決済にたどり着くのが難しく、決済直前で辞めている人もいます
- ・店舗の人に周知、説明されていないと感じました
- ・店舗が少ないので、増やしてほしいという要望があります
- ・クレジットカードチャージについては、都度入力が懸念されます

- ・コンビニチャージは便利との声もありますが、セブン銀行と間違っている人もいますので、説明が必要です
- ・QRコード読み取りできない状態が個々で起きていると思われます
- ・ポイント不要という声もあります
- ・ボランティアでの利用も見受けられました
- ・お店への情報が遅れてくるので、事前に一緒にやっていきたいと思っている店舗もあります
- ・店舗の協力のために早めの周知をはかっていただきたいです
- ・大きな問題は特になかったです
- ・組織ごとの対応に違いがありました
- ・イベントなどでPRをしていくのも良いのではないのでしょうか
- ・特定ユーザになっているので、周知/浸透を丁寧に実施していくことが大事であり、専門のPRする人材が必要と思います
- ・システムの円滑利用、アプリの信頼性も含めて改善が必要です
- ・なとりコイン利用による将来ビジョンを市民と共有することが大切です
(委員)
- ・決済額と満足度の関連性はどうですか
(委員長)
- ・あまり違いが無いように思います
(委員)
- ・若中高の分け方で希望店舗は、利用者の個性が出ていると思いました。
(委員長)
- ・ドラッグストアなどでの希望も多かったと思いました
(委員)
- ・なとりコインが無くなると思っている人もいますので、将来ビジョンは必要と思います
(委員長)
- ・いつまでやるのか、他の電子マネーにした方が良いのではとかの回答や、なとりコインでの強みを周知し、深めて行くのが必要とのコメントもありました。なとりコインの強みの周知や行政ポイントの強みなどの周知も必要と思います
(委員)
- ・ニッチャーとしての全国的な戦略をされているのかわかりますか
(委員長)
- ・小さなコミュニティで利用しているところから広げているところが多いが、今回のやり方は大きくやっている所以違いがあるかもしれません
(委員)
- ・40から50代が多いのはなぜでしょうか。このまま期間を追うごとにスライドするのか。若者の満足度を上げるための何かがあればと思います。
(委員長)
- ・若者は、生活の足しや還元に飛びつくと思われます。ただし、日常的に使ってくれるのかがカギなのかなと思いますので、若者に刺さる部分がどこなのかまではまだわかりません。行政ポイントの配布数はわかると思いますが、年代数やスマホチャージの数値もわかれば良いと思います
(委員)
- ・みやぼの登録が多いのは、公共の運営という安心感もあるのではと思います
(委員長)
- ・確かに安心感や信頼性については、聞いていませんでした。そこはアピールするポイントになるかと思えますし、若い人の社会貢献に使えるようになれば良いと思います。
(委員)
- ・その辺を広報なとりなどで伝えられないか

(委員)

- ・広報なとりを見ているのが、40 から 50 代なのではないのか。

(委員長)

- ・まんべんなく伝えるのは難しい。
生協ユーザへの周知やケースデンキでの動画を流すなどのご協力いただけるお話もありました

(2) 協議事項：翌年度のデジ通の進め方について

(事務局)

- ・4～6 月は、プレミアム商品券事業の販売に注力するので、第 1 回目は 7 月末を予定しています
- ・今後チャージ上限額 30 万円制限の検討を行います
- ・利用シーンの拡大についても考えていきます

(委員)

- ・プレミアム商品券事業に注力するとのことですが、順調にいなかった場合のリカバリーが 7 月末の開催ではできないと思いますが、4 月の出だしの共有は無くても良いのですか

(事務局)

- ・何があるかわからないので、注力したいと思います

(委員)

- ・売れるかわからないので 5 割増しにしました。また、カードも可能としたことにより、両方うまく回るように調整できるようにしています
- ・経済対策を早めにしたいたですが、デジタルは早く運営でき、紙は 1 か月遅れます。デジタルの場合の説明書を見るのも大変です

(委員)

- ・過去の販売は紙だったと思いますが、みやぽの初期では売れてなかった事は事実なので、その可能性に対しての対応をスケジュールに入れておいた方が良いと思います

(事務局)

- ・売れなかった場合は、追加販売を実施するかどうかを含め、検討中です。
- ・ハガキの場合は、取りまとめに時間がかかるので、デジタル先行で実施します

(委員)

- ・個人と世帯の違いもあるので、販売状況がどうなるかわからないのではないですか

(委員)

- ・店舗は増えるのですか

(事務局)

- ・4 月から加盟店開拓をする予定です

(委員長)

- ・デジタル地域通貨導入に伴い職員効率は図られましたか

(事務局)

- ・市の事業としては初めての取り組みであり、デジタルとはがき申し込みの併用なので、業務量は増えています。

(委員長)

- ・徐々に削減できていければ良いですね

(委員)

- ・商工会として、4 月中に閉上でなとりコイン普及とプレミアム商品券事業の説明会をすることに決定しました。また、なとりコインの普及のために割り増し事業を検討し、加盟店での手数料負担を商工会で負担する事を考えています。

(3) その他

特に無し